印西大師　第81番　小林・光明寺

1　名称　(No.081)〔手引鏡：光明寺〕〔資料館：光明寺〕〔行程表：光明寺〕

2　場所　印西市小林1841　光明寺

小林・大日堂から道程約720m

GPS座標 35.8285465775261, 140.18902269359057

3　由緒　　天台宗 稲荷山 普賢院 光明寺

光明寺は天正元年(1573年)に創建(開基不詳)された瀧水寺の末寺で、本尊は阿弥陀如来です。現在の本堂は安政5年(1858年)の火災後建てられたもので、戦後、保育園として開放されています。境内には下総型板碑、金比羅宮、地蔵堂などがあります。(中略) また、境内の台山には約18基の住職の墓石が並んでいますが、その中に暦応4年(1341年)の紀念名のある下総型板碑があります。(印西名所図会)

4　御堂　大師堂の中に丸彫りの御大師様が１体あり。台座左側に安政4年(1857年)台方講中の銘があるらしい。(印西町調査報告書)

5　境内　大師堂のまわりは墓地。万九郎地蔵などがある。隣に南弘防歸國稲荷神社がある。

6　写真　(2023.11撮影)

大師堂

御大師様

大師堂

7　情報

(1) 印西大師 第81番 光明寺 御詠歌（泉倉寺本による）

霜寒く露白妙の寺に来て 御名を唱ふる法の聲

四国八十八ヶ所 第81番 真言宗御室派 綾松山(りょうしょうざん) 洞林院 白峯寺(しろみねじ) 写し

(2) 弥陀三尊下総型板碑

この板碑は、黒雲母片岩製の幅広の下総型板碑で、長さ110cm、幅48cm、厚さ3cmあります。表面の中心に阿弥陀如来、右に勢至菩薩、左に観音菩薩を象徴する種子を配し、それらの上に発心門、右側に報身(胎蔵界大日)真言と左側に金剛五仏の梵字が刻まれています。三尊の下には「極重悪人　無他方便　唯称念佛　暦応四年四月十日」(暦応4年＝1341年）の銘があります。(印西市ＨＰより)

(3) 万九郎地蔵

二体の万九郎地蔵は享保12年（1727年）に子育て地蔵として信仰されていました。香取郡を知行していた旗本大久保万九郎忠孝の叔父鉄右衛門は行跡が悪く香取郡の佐原村に預けられていましたが、行状はひどくなる一方でした。村人から寛保2年（1742年）に大久保家の江戸屋敷

に知らせがいき、鉄右衛門は役人に捕えられました。夜中に逃走しましたが小林村で追ってきた役人を斬りつけた上で本人も死んでしまいました。遺体は光明寺のお地蔵様の横に葬られ、村人によって「武州江戸大久保万九郎殿（以下削り取り）－翁宗純居士霊位」と刻れた墓石が建てられました。そのため子育て地蔵は「万九郎地蔵」と呼ばれるようになり、いつのまにか風邪や咳の神様として信仰されるようになりました。(「小林住みよいまちづくり会」ＨＰより)

広い境内を探したところ本堂の西側にありました。中央の墓石には「本理院殿一･･･」と刻まれていました。ただし、印西市発行の「印西名所図会」に掲載されている万九郎地蔵の写真(右)は、左右のお地蔵さんが健在ですが、写真(左)のとおり右側のお地蔵さんの頭が下に落ちていました。
(2021.10現地調査)

2021.10 撮影

印西名所図会の写真

(4) 南弘防歸國稲荷神社

神社の尊号　　創建当初から江戸初期までは、朝日稲荷と呼ばれていたようですが、いつ頃（天正頃）からか『南弘防歸國稲荷』とよばれるようになりました。『朝日稲荷』の尊号は朝日（旭）将軍と呼ばれていた木曽義仲に因んだものと考えられる。稲荷神社の鎮座は天神前ですが、昔は稲荷台ともいいました。天正元年（1573)、隣接地に創建された光明寺の山号は稲荷山（天台宗普賢院光明寺)、稲荷台を取巻く谷津は稲荷谷といい、地域とのかかわりの深い神社です。

※尊号変更について一考察　　南弘防は、元々『南光坊』ではなかったか？とすれば、徳川家康の側近で、関東天台総本山である、川越の無量寿寺北院（現、喜多院)、および江戸崎不動院の住職であった南光坊天海に因んだものと思われる。天海が南光坊と呼ばれるようになったのは、比叡山探題執行に命ぜられ、南光坊に住し、延暦寺再興に関わったのちなので、関東に戻った慶長年間後半以降に「南光坊歸國」の尊号になったと推察される。(稲荷神社保存会の現地説明板より)